

2012年7月11日

タンザニアの合弁会社に研究所を新設

住友化学の合弁会社「ベクター・ヘルス・インターナショナル・リミテッド」(以下、ベクターヘルス社)は、タンザニア アルーシャ市においてマラリア予防用防虫剤処理蚊帳「オリセット®ネット」の製造を行っております。同社はこのほど、ベクターコントロール^(*1)分野の各種製品や農業関連製品の効力評価、開発、分析を行う「アフリカ・テクニカル・リサーチ・センター」(以下、ATRC)を新設いたしましたのでお知らせいたします。

マラリアは、約90%がサハラ以南のアフリカで発生しております。人はマラリア原虫を持つ蚊に刺されることにより感染しますが、防虫剤で処理された蚊帳にはこれを予防する効果があることが認められています。ベクターヘルス社はこれまで、住友化学の独自技術により開発され、2001年に世界保健機関(WHO)から世界で初めて「長期残効型蚊帳」として承認された「オリセット®ネット」の主力製造拠点として、マラリアの感染防止に大きく貢献してまいりました。

マラリアの被害をより効率よく低減させるためには、防虫剤処理蚊帳に加えて他の製品も併せて使用する総合的な対策が有効とされています。また、防虫剤処理蚊帳に広く使われているピレスロイド系薬剤に対して抵抗性を有する蚊の発生が一部の地域で確認されており、新しいタイプの蚊帳の開発なども求められているところです。こうした背景のもと、ベクターヘルス社は製品ラインナップの拡充を図るため、新たにATRCを設置することとしたものです。

また、「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals : MDGs)^(*2)」に掲げられているように、アフリカの飢餓人口を減少させることは国際社会が抱える重要な課題です。今後、農薬を含めた農業関連製品の適切な使用による農作物の生産性向上が一層求められるため、ATRCは、住友化学の技術力や「オリセット®ネット」事業で培ったノウハウを生かし、作物用防虫ネットなど、アフリカ向け農業関連製品の開発も行っております。

ATRCは、住友化学グループが初めてアフリカに設置した研究所であり、タンザニアやその近隣国から研究員を採用し活動を開始いたします。製品が実際に使用されるアフリカにおいて、効力評価、開発、分析を行うことで、新製品の早期開発につなげてまいります。

住友化学は、ベクターコントロール分野の製品や農業関連製品の開発と事業の拡大を通じて、アフリカ開発の妨げとなっているマラリア防圧や飢餓人口の減少に向けた取り組みを、積極的に進めていく考えです。

(*1) 蚊や他の昆虫によって媒介されるマラリアや黄熱病などの疾患の伝播を抑制すること。

(*2) 国際連合が2000年9月に採択した国連ミレニアム宣言に基づき、貧困、教育、環境、人権など8つのテーマについて、達成すべき目標とアクションプランを定めたもの。

以上

【ご参考】

<ベクターヘルス社の概要>

社名 : Vector Health International Ltd. (ベクター・ヘルス・インターナショナル・リミテッド)
所在地 : タンザニア アルーシャ市
設立年月 : 2005年9月
資本金 : 300万USドル
出資比率 : 住友化学 50%、Net Health Ltd. (ネット・ヘルス・リミテッド) 50%
社長 : Kalpesh Shah (カルペッシュ・シャー)
従業員数 : 約2,800人
事業内容 : 「オリセット®ネット」の製造

<新研究所の概要>

名称 : Africa Technical Research Center (アフリカ・テクニカル・リサーチ・センター)
所在地 : タンザニア アルーシャ市
設立年月 : 2012年6月
所長 : Dr. Johnson O. Odera (ジョンソン・O・オデラ)
研究員数 : 約30人(予定)
研究内容 : (1) ベクターコントロール分野の各種製品の効力評価と開発
(2) 農業関連製品の効力評価と開発
(3) ベクターコントロール分野の各種製品および農業関連製品の化学分析